



昨年の11月18日、『第2回北斗市子ども議会』が開催されました。今回も傍聴席からの様子を皆さんにお伝えできればなと思っています。

昨年も一昨年同様、市長、市議会議員、市の関係部課長などが列席し、報道陣とインターネット中継のカメラが回

る市議会そのもの。ただ一つ大きく違ったことは、今回から市内各高校が参加したことです。小学生16名、中学生8名、高校生6名の計30議席で、より多様な議論の可能性が生まれました。議長を務めたのは浜分中の土田議員。「大変重要な仕事で緊張している」とのあいさつでした

が、落ち着いたテンポで議事を始めたのが印象的です。一般質問は10名が登壇し、池田市長が全ての答弁に立ちました。

トップバッターは久根別小の舟口議員。道の駅の建設を提案しました。市長は道の駅に近い施設として、観光交流センターやあぐりへい屋、北斗フィッシャリーなどを挙げ、「点在する施設を周遊することで、観光客の皆様楽しんでいただきたい」と、現在は整備計画がないことを説明。一方で三ツ石の「北斗ヴィンヤード」に大きな期

待をしているとし、観光地化した際には道の駅を検討する可能性がある」と答弁しました。

大野中の山田議員は観光PRに焦点を絞り、北斗桜回廊のスタンプラリー導入と、新駅周辺での雪まつり開催を提案しました。感心したのは山田議員が、「最後にこのイベントの実現に向けて、私たち北斗市の小・中・高校生に何かできることはありませんか」と質問したことです。市長も「皆さんには市内で開催されるイベントに積極的に参加していただきたい。一緒に考え、取り組むことによって、地域の学生と観光客が交流できる新しい形態のイベントになるのではないかと」と、頼もしさを感じていました。

木育学習に力を入れている市渡小の藤川議員は、森林のリラックス効果を説明した上で、「市の木を利用したアスレチックや宿泊施設をつくり、そこで市産食材を使った食事を提供することで、全国に市の魅力を発信できる」と提案し、「自然と食を融合させた施設というのは興味深いアイデア」との答弁を得ました。熊対策にも配慮した提案は説

得力があり、社会問題を見逃ごさない姿勢も素晴らしいなと思いました。



北斗高の小川議員は、新函館北斗駅・上磯線バスについて、「就職した場合は土日勤務の可能性もある。休日も平日並みの運行はできないか」と提案しました。「バスの運行に必要な経費は、乗客の運賃で賄うことができている赤字の状態。ただバスの利用者や需要が高まれば、休日の増便は可能になる。今後も利用促進に努めていきたい」との答弁によって、初めてまち

の公共交通の状況を知った子ども議員も多かったと思います。

人口減少問題について質問したのは、石別小の上田議員。空き家を外国人観光客向けの日本文化体験施設や、貸出可能な民泊施設に利用できるように空き家バンク制度を拡充してほしいとの提案でした。

市長は「将来的には移住希望者だけでなく、事業用や民間企業にも利用できる制度にし、ご提案いただいたアイデアが現実のものとなるように努めたい」と答弁。上田議員は提案の中で、市の移住・定住促進事業「キミとボクとホクト」の成果を質問する場面もありました。地域の課題を深く掘り下げたことがよく分かりました。

議事終了後の市長あいさつで、「皆さんが北斗市を大好きだと認識できた。それを生かしたい」という言葉がありました。私はこの議場に息づいている言葉であるように感じ、市民の皆さまにも伝えたいと思います。これからより多くの「まちのため」を聞きたいので、第3回を楽しみに待っています。